

## 特集

最期まで幸せに

## 老犬・老猫との暮らし

私たち人間にとって犬や猫は、伴侶動物のなかでも絶対的地位を持っています。初めて出会った時から数年～十数年の月日が過ぎ、ついこの間までは幼く活発だった愛犬・愛猫も人間の5～6倍の早さで急速に年老いていきます。私たちの生活の身近にいる、かけがえのない存在の犬猫たち。日々の生活に変化や笑いをもたらしてくれる彼らが、幸せな一生を終えるように飼い主ができることは、

## 犬猫は良き伴侶動物

2000年代の空前のペットブームから多くの家庭でペットが飼われるようになり、今や15歳以下の子供の数よりもペットの数が多く、現在では7歳以上の老犬が全体に占める割合は40%以上と言われています。昔に比べ犬猫の食生活や医療も向上し、飼い主さんが早期に病気を発見、治療出来るようになり、平均寿命も長くなっています。しかし、一方では年をとったという理由から捨てられる犬猫も多く、様々な問題も起きています。

犬猫は人間の感情に敏感な生き物です。特に犬は飼い主が嬉しそうだと一緒に喜んで、また心配事があって憂鬱な気分の際は心配そうに顔を覗き込んだり、家族の中で争いがあつた時など犬はオドオドしたり隠れて出て来なかったり、あるいは間に入り吠えて争いを制止させようしたりします。いつも私たちと寝食を共にし、人間と感情をともにしてくれる犬猫たち。私たちは最期を終えるまで愛情をかけて接し、また遠くない将来別れが来ることを予測して、日頃から心がける必要があります。全ての動物に平等に訪れる老化・・・大事な家族である動物たちの老化のサインを見逃さないためには、どういったことに気をつけたいのでしょうか。

## 老化のサイン

犬や猫の老化は7歳くらいから始まりますが、老化のサインはどういったところに表れるのでしょうか？ 7歳くらいになると少しずつ老化が始まり、睡眠時間が多くなる、動きがゆっくりになる、犬はお散歩に出てもすぐに戻ろうとしたり、中には散歩に行きたがらなくなる子もいます。また、散歩中に息が苦しうになり座り込んで動かなくなることもあります。階段の上り下りをおくうがったり、猫は若いころは簡単に飛び乗っていた高いところにジャンプしても届かず、途中から落下して怪我をすることもあります。骨がもろくなっているので骨折することもあります。また、耳が遠くなり反応が悪くなる、目も白内障になり見えづらくなって物によくぶつかるようになります。白髪が増える、毛艶も悪くなって毛がボソボソしてくる、皮膚はイボや腫瘍が出来たりします。歯石が付く、歯が抜ける、鼻や皮膚が乾きやすく皮膚に弾力もなくなってきます。また、背骨のラインが変わり下半身が下がってきます。老化がすすむと食べるのに瘦せたりし、更に認知症の症状が出てくると餌を何度も催促したり、夜中に徘徊したり大きな声で鳴くようになります。排泄も上手に出来なくなり寝たきりになる子もいます。人間の老化現象と同じで、老化というとマイナスなイメージがあるかもしれませんが、年を取れば当然のことなのです。

小中型犬・猫	人間	大型犬	人間
3ヵ月	5歳	3ヵ月	5歳
6ヵ月	10歳	6ヵ月	10歳
1歳	18歳	1歳	18歳
3歳	28歳	3歳	28歳
5歳	36歳	5歳	38歳
7歳	44歳	7歳	48歳
10歳	56歳	10歳	63歳
12歳	64歳	12歳	73歳
15歳	76歳	15歳	88歳
16歳	80歳	16歳	93歳

人間と犬猫の年齢の違い

状況が出てくると餌を何度も催促したり、夜中に徘徊したり大きな声で鳴くようになります。排泄も上手に出来なくなり寝たきりになる子もいます。人間の老化現象と同じで、老化というとマイナスなイメージがあるかもしれませんが、年を取れば当然のことなのです。

## 動物たちの身になって

犬猫も人間と同じで加齢で身体が弱まっていくことを止めることは出来ませんが、遅らせることは可能です。犬猫が7歳のシニア年齢に差しかかったら、フードを徐々にシニア用に移行したり、病気がある場合は療法食にしたり、人間と同じように栄養補助食品で足りない成分を補ったり、健康に配慮した食生活を心がけます。

日頃、注意する点では、食欲はいつも通りか、飲み水の量に変化はないか、目に輝きはあるか、ひどい目ヤニや涙が多く出ていないか、脱毛していたりフケが多く出ていないか、皮膚の柔らかさはいつも通りか、呼吸はスムーズか、咳はしていないか、痒そうしているところはないか、全身を触って痛がる場所はないか、排便排尿に異常はないか等、動物も人間と同じで年をとると免疫力も低下し病気に罹りやすくなります。変化に気づいてあげられるのは、普段から一緒に生活している飼い主です。

環境面では安心して過ごせる静かで暖かな休憩スペースを用意して、寝床には新鮮な水とその子にあった食べやすいフード、使いやすいトイレを用意してあげます。猫は暖かい日に日向ぼっこできるような落ち着ける場所を用意し、敷物を敷いてあげるといいでしょう。また、季節の変わり目は気温の変化に注意してください。老犬は若いころのように元気よく歩くことが出来ませんし立ちあがるのも困難になります。自力で立てなくなったり、自分の力だけでは歩けない犬には、タオルなどで介助用のハーネスを作り、リードを付けて身体を吊り上げるように支えてあげます。犬は残された自分の力で歩こうとするので、適度な運動やストレスの解消にもなり生きる力が湧いてきます。



このように、飼い主が動物の健康状態をつねにチェックして、無理のない食事や運動、生活環境に配慮すると晩年をより豊かに過ごすことが出来ます。動物達は痛みや苦しみを人間のように言葉にして訴えることは出来ません。年だからと軽視せずに、動物病院の獣医師に相談しましょう。老化も前向きに付き合っていきたいものです。



## その時は最善を

動物たちはトラブルを起しながらも懸命に生きる姿や、純粋で無垢な穢れのない心で私たちに限りない喜びや癒しを与え、人間に様々なことを教えてくれます。しかし、どんなに大切にしている最愛のペットとお別れは必ずやって来ますし、いつお別れがやってくるかは誰にも分かりません。最期の日を静かに迎える子もいれば、そばで看取るのが自分のことのように辛い状況の場合もあります。動物が亡くなった時のことが、何年経っても思い起され、自分を責めたり、当時のことを悔いたり、悲しみに暮れることもあります。だからこそ、その日、その時の最善を尽くしてあげましょう。そして、ともに過ごした動物を心穏やかに温かく、「いままでありがとう。」と感謝の気持ちをもって見送ってあげたいものです。

## 捨てるのは犯罪

これまで、ともに過ごしてきた動物達を、どこかに捨てたり、保健所に持ち込んだり、残酷なことをする人間もいます。保健所に収容される高齢の犬や猫のなかには、病気が怪我が進行して、手が付けられない状態の子もいて、捨てられた動物たちは最後まで飼い主を信じて迎えに来てもらえるのを待っています。弱い立場の動物を、捨てることは人として他言できないほど大変恥じるべき行為です。絶対にしてはいけないことです。もし、自分が年をとって病気が怪我をして、家族や大切な人に捨てられたとしたら・・・想像してみてください。最期の瞬間まで愛情をもって介護するか、途中で投げ出し責任と義務を放棄するか・・・自分が死ぬ時に、後悔や懺悔の気持ちに苛まれない生き方をしたいものです。

## 犬の十戒

1. 私の一生はわずか数十年です。ほんのわずかな間でも貴方と離れていることは辛いのです。私のことを飼う(買う)前にどうかそのことを考えてください。
2. 貴方が私に望んでいることを理解できるようになるまで、少しだけ時間がほしいのです。
3. 私を信頼してください。それだけで私は幸せなのです。
4. 私を長時間叱ったり、罰として閉じ込めたりしないでください。貴方には仕事や楽しみがあり、友達もいるでしょう。でも私には貴方しかいないのです。
5. 時には私に話しかけてください。たとえ貴方の言葉を理解できなくても、私に話しかけているその声でちゃんと理解しています。
6. 貴方がいつも私に対してどんなふうに接しているか考えてみてください。私は貴方にされたことを決して忘れません。
7. 私を叩く前に思い出して下さい。私には貴方の手の骨を簡単に踏み砕けるすごい力があるけれど、私はそうしないようにしていることを。
8. 言うことをきかない、頑固だ、怠け者だとしかる前に、私がそうなる原因が何かないか考えてみてください。適切な食餌をあげなかったのでは？日中太陽が照りつける外に長時間放置してなかったか？年をとると心臓が弱ってはいないだろうか？と。
9. 私が年をとっても、どうか世話をして下さい。貴方もいずれ同じように年をとるのですから。
10. 最期の旅立ちの時には、そばにいて私を見送って下さい「見ているのが辛いから」とか「私の居ないところで泣かせておいて」なんて言わないで欲しいのです。貴方が側にいてくれるだけで、私にはどんなことでも安らかに受け入れられます。そしてどうか忘れずに下さい。私が貴方を愛していることを。

作者不明